

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	戸板女子短期大学
設置者名	学校法人 戸板学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
戸板女子短期大学	服飾芸術科	夜・通信	8	0	63	71	7	0
	食物栄養科	夜・通信			44	52	7	0
	国際コミュニケーション学科	夜・通信			67	75	7	0
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

授業科目一覧：<https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/jitsumukakyoinjugyoichian.pdf>
シラバス：<https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/jitsumuka-syllabus.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名なし
(困難である理由) なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	戸板女子短期大学
設置者名	学校法人 戸板学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	会社 代表取締役社長 (前職)	2017. 4. 1～ 2020. 3. 31	理事長 学校法人を代表 し、その業務を総 理する
常勤	会社 上席職員 (前 職)	2017. 4. 1～ 2020. 3. 31	法人本部長 理事長を補佐して 学校法人の業務を 掌理する。
常勤	学校法人 学校長 (前 職)	2019. 4. 1～ 2022. 3. 31	中高の教育監修 理事会決議事項へ の意見、意思表示 等、学校法人運営 への積極的な参画
非常勤	会社 顧問 (前職)	2017. 4. 1～ 2020. 3. 31	理事会決議事項へ の意見、意思表示 等、学校法人運営 への積極的な参画
非常勤	学校法人 理事 (現 職)	2017. 4. 1～ 2020. 3. 31	理事会決議事項へ の意見、意思表示 等、学校法人運営 への積極的な参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名(学部等名)	戸板女子短期大学
設置者名	学校法人戸板学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>教務部が教務委員会の承認のもと、9月下旬にシラバス作成を各教員に依頼している。専任教員に対しては全体説明会にて、「授業内容」「授業目標」「授業計画」「到達目標・基準」「事前・事後学修」「指導方法」「成績評価の方法・基準」「テキスト」「参考書」「履修上の注意」「アクティブラーニング」の取組、「ICTの活用」の記載方法を説明し、当該年度の12月末までに作成依頼している。なお、非常勤の教員に対しても全体説明会を別途開催しており、説明会に欠席した教員には教務部が別日に個別で説明し、専任・非常勤にかかわらず、全教員が記載方法を理解したうえでのシラバス作成を徹底している。</p> <p>また、シラバスは、教務委員会 講義内容編集要領に基づき教務委員会によって第三者チェックされ修正し完成したものを受け、入試・広報部が当該年度内にHPにて掲載し一般に公表している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>服飾芸術科 : https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/department/fashion/syllabus_fashion_2019.pdf</p> <p>食物栄養科 : https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/department/food/syllabus_food_2019.pdf</p> <p>国際コミュニケーション学科 : https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/department/international/syllabus_ic_2019.pdf</p> <p>総合教養科目 : https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/department/culture/syllabus_culture_2019.pdf</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

教務部が前期、後期終了時に行う「授業に関する学生の意識調査」により個別の授業ごとに学修意欲の把握をしている。また、各教員は、シラバスに基づき「成績評価の方法・基準」におけるディプロマポリシーの観点や成績評価の比重を設定するなど学修成果を厳格かつ適正に評価しつつ指定単位を与えており、卒業に必要な単位数は以下としている。

服飾芸術科では、総合教養科目(必修・選択必修)14単位以上、専門教育科目(必修・選択必修)10単位以上、(選択)40単位以上、合計64単位以上。

食物栄養科では、総合教養科目(必修・選択必修)14単位以上、専門教育科目(必修・選択必修)15単位以上、(選択)35単位以上、合計64単位以上。

国際コミュニケーション学科では、総合教養科目(必修・選択必修)、14単位以上、(必修・選択必修)15単位以上、(選択)35単位以上、合計64単位以上。

なお、総合教養科目14単位以上は、少なくとも12単位は共通教育科目を修得することとしている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価においてはGPAを設定し、学内では「履修要項」に記載し、学内外ではHP掲載により公表している。また、各学科各授業の成績の分布状況の把握に努め短大運営会議において各学科教員への周知を図るとともに、各学科の半期ごとの成績分布状況をHPで公表している。また、授業の成績評価は、以下の通りS、A、B、C、Fの5段階で行っている。なお、「戸板ゼミナール」、「学科ゼミナール」、「学外実習」、「インターンシップ」等、通常の授業と異なる科目は「P」Pass、「D」Dropで評価することもある。

GPAの算出方法については、履修した科目の成績評価(5段階)を4~0までのポイントに置き換え(GP)、それに履修した単位数を乗じて、全ての科目のポイント数を合計し、履修総単位数で割ったものが平均点(GPA)となる。

但し、「P(合格)」「D(不合格)」「T(認定)」で成績評価される科目はGPAに算出しない。

$$\text{GPA算出式} = \frac{\text{履修登録をした科目のGP} \times \text{履修登録をした科目の単位数}}{\text{履修登録をした科目の単位数の合計}}$$

GPA算出式=

履修登録をした科目の単位数の合計

GPAのグレードポイント(事例)

Sは、合格(100~90点) 4評価

Aは、合格(89~80点) 3評価

Bは、合格(79~70点) 2評価

Cは、合格(69~60点) 1評価

Fは、不合格(59点~0点) Fail(不可)評価

Wは、不合格 - 0 Withdrawal(放棄)評価

Pは、合格 - - Pass(合)評価

Dは、不合格 - - Drop(否)評価

Tは、認定 - - Transferred(認定)評価

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>2018年服飾芸術科1年： https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/2018gpah1.pdf 2018年食物栄養科1年： https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/2018gpas1.pdf 2018年国際コミュニケーション学科1年： https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/2018gpak1.pdf 2018年服飾芸術科2年： https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/2018gpah2.pdf 2018年食物栄養科2年： https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/2018gpas2.pdf 2018年国際コミュニケーション学科2年： https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/2018gpak2.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）については、建学の精神である「時代に適応する実学の教授研究により、職業に必要な能力を育成するとともに、知性と品性を涵養し、女性の人格形成と自立を目指すこと」を教育方針とし、「時代の要請に適応する実際的な専門の学術技術を教育研究し、広く一般的教養を高め、自己肯定感の高い、社会に貢献できる感性豊かな女性を育成する」ことを理念とし、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、アセスメントポリシーとともに策定をしている。戸板女子短期大学ホームページに掲載し、学生、教職員のほか、広く学外にも公表し、適切に実施している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.toita.ac.jp/info/policy.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	戸板女子短期大学
設置者名	学校法人 戸板学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/h30_kessan_0006_0001.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/h30_kessan_0005_0001.pdf
財産目録	https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/h30_kessan_0007_0001.pdf
事業報告書	https://www.toita.ac.jp/info/pdf/h30_jigyo.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/h30_kessan_0002_0001.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:平成31年度事業計画書 対象年度:平成31年度)
公表方法: https://www.toita.ac.jp/info/pdf/h31_jigyo_keikaku.pdf
中長期計画(名称: 対象年度:)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://toita.ac.jp/info/pdf/h29_report.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://toita.ac.jp/info/pdf/h30_evaluation.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 服飾芸術科
教育研究上の目的（公表方法： https://toita.ac.jp/info/idea.html ）
（概要）建学の精神 本学の建学の精神は、時代に適応する実学の教授研究により、職業に必要な能力を育成するとともに、知性と品性を涵養し、女性の人格形成と自立を目指すことにある。（建学の精神・教育理念より抜粋）
卒業の認定に関する方針 （公表方法： https://www.toita.ac.jp/info/policy.html ）
（概要）ディプロマポリシー 服飾芸術科では、本学の教育課程を修め、64 単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、ファッションビジネスとファッションデザインに関わる専門的知識・技術、ファッション業界における実務的能力と社会人として必要とされる豊かな教養の修得により、以下のファッションを中心とした衣生活全般の総合的提案力を備えた人物に学位を授与します。 A. 主体性・チームワーク・責任感 与えられたテーマに対して積極的に取り組み、責任感と協調性を持って最後までやり抜くことができます。 B. コミュニケーション能力 社会人としてふさわしいマナーや心配りで他者と接するとともに、相手の話を興味・共感をもって聞くことができます。また、様々な生活スタイル、イベントに応じた提案やファッション業界での仕事に必要なコミュニケーションをとることができます。 C. 思考力・判断力 取り巻く様々な情報からトレンドを読み取り、ニーズに対応した企画・立案を通して問題点を指摘することができます。 D. 知識・理解 ファッション業界における市場調査・企画・生産・流通・広告・販売に関する基本的知識を活用し、デザイン・製作の技術を通して、現代のファッションビジネスを分かりやすく説明することができます。 E. 技能・表現 豊かな衣生活ができるよう、状況にふさわしい手段を選択し、ライフスタイル提案ができます。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://toita.ac.jp/info/policy.html ）
（概要）カリキュラムポリシー 卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技術などを修得させるために、総合教養科目・専門教育科目及びキャリア教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。科目間の関連や科目の配置を示すためにナンバリングとカラーリングを行い、カリキュラムマップによってカリキュラムの体系をわかりやすく提示します。また、教育内容、教育方法、教育評価について、以下のよう定めます。 ■教育内容 ・総合教養科目 A. 基礎系科目では、初年次教育や多様な特別講座を通じて、短期大学での

学修へ円滑に移行する力を育成します。また、豊かな日本語表現力や数的理解力を高めるとともに、自発的かつ継続的な学修力を定着させます。キャリア系科目では、洗練された女性としての立ち居振る舞い、社会常識、ホスピタリティ・マインドを育み、さらに、社会や自身への理解を深めて、自己への肯定感、仕事への意欲、自律と自立の精神を養い、自らの人生を総合的に考え創造する力を育成します。

B. 人文・社会・自然系科目では、専門科目につながる基礎知識・関連知識の定着に加え、多様な学修内容と実践を通して、学びを楽しみ豊かに生きる力および自己成長力を養成します。そのために、現代女性をとりまく問題をはじめ、人間、社会、自然に対する理解を深め、社会人として必要となる適切な判断力、広い視野を持って社会の諸課題について協働して問題解決する力、個性を活かした社会貢献を実践する力を育む科目を配置します。

C. ICT系科目では、パソコンの基本操作やメール・SNSの利活用等情報リテラシーを身につけ、資格取得を目指すとともに、個人情報・セキュリティ・著作権等ネットコンテンツの安全な使用方法を含め、情報活用に関する知識を修得します。語学系科目では、将来の職業に直結した実践的な英語力や第二外国語の習得を通し、グローバル社会で必要な英語コミュニケーション力と異文化理解力を育成します。体育系科目では、基礎体力を養成し、運動習慣を身につけることで、自らの健康管理を継続する力を育成します。さらに、チームでの協働を通して、共感力、協調性、発信力を養います。

・専門教育科目

感性を高めるデザインの学びと論理的な思考力・判断力を養うビジネスの学びを2つの柱とし、2年間で、目指す職業に直結した下記のモデルを組み合わせることで、社会で活躍できる専門知識と技術を養うとともに、社会人基礎力などのいつの時代でも通用する汎用的職業能力を育成します。

D. 「ファッション デザインモデル」では、技術と表現を高めるプログラムを用意しています。人体と衣服との関係を踏まえてデザインすることを基本に、衣服の素材からデザイン画、製図理論や製作技術までの実践的な学びを配置しています。

E. 「ファッション プランニングモデル」では、ブランドビジネスに活用できるプログラムを用意しています。ファッションビジネスのプロセスの理解できるように、マーケティング、マーチャンダイジング、生産管理、プレスなどの学びを編成しています。

F. 「ファッション セールスマodel」では、ファッション販売に活用できるプログラムを用意しています。店舗運営のプロセスの理解や、店舗管理、VMD（ビジュアルマーチャンダイジング）、商品仕入、流通チャネル、販売、顧客管理などの実践的な学びを配置しています。

G. 「ウエディングモデル」では、ウエディングビジネスの基礎知識を修得し、模擬挙式から模擬披露宴まで創りあげるプログラムを用意しています。ウエディング業界で戦力となるために、プランニング、ウエディングビューティ、コラージュ、写真撮影技術、Webデザインの企画・広報などの学びを編成しています。

H. 「ビューティモデル」では、ビューティビジネスの基礎知識を修得し、メイク・ヘア・ネイルなど総合的に美の知識や表現を高めるプログラムを用意しています。メイクアップの方法や心を豊かにする美の力、実務で戦力となる技術力、カウンセリング力、コミュニケーション力を育成するための相モデルでの実技やヘアアレンジの演習科目を配置しています。

I. 「ライフスタイルモデル」では、文化、アート、エンタテインメントの知識と表現を高めるプログラムを用意しています。イベントの企画・運営・制

作の演習を通してしなやかな思考でライフスタイルを提案する力を育むため、ファッションとエンタテインメントが持つ人の感情に働きかける力や豊かな衣生活を学びます。

■教育方法

J. 主体的に学ぶ力を高めるために、学内 Web システムを活用し自ら学修計画を立て、実行し、振り返りを行い、教職員と共に計画修正を行うという一連の流れを目標達成まで繰り返します。

K. 服飾造形等の科目においては、被服製作技能を考慮し学生のレベルに応じた効果的な教育を行うため、少人数制の習熟度別クラス編成を取り入れます。

L. 調査・分析を通して判断力を養い問題解決力を育成するため、産官学連携課題解決型授業を行います。

M. 提案力を育くむため、第一線で活躍するファッション業界の外部講師による講義やインターンシップ・ボランティア・正課外活動などの体験型の学びを用意します。

N. チームワーク力を高めるとともに責任感、協調性を身につけるため、学科で行うグループワーク・ペアワーク等を多用する演習・実習科目から様々な役割を担わせます。

■教育評価

O. 学位授与の方針で掲げる能力をコアとなる授業科目における目標到達度（学科ルーブリック）と 2 年間の修得単位数、客観的成績評価(GPA)によって評価します。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://toita.ac.jp/info/policy.html>）

（概要）アドミッションポリシー 服飾芸術科では、卒業認定・学位授与の方針および教育課程編成の方針に定める人材を育成するために、次にあげる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。また、入学者を適正に選抜するために多様な選抜方法を実施いたします。

A. トレンドに敏感でデザインすることに関心があり、ファッション業界の専門知識・技術を主体的に学び社会に貢献する意欲を持っています。

B. 高等学校までの履修内容のうち、特に国語読解力があり、コミュニケーション力を身につけています。

C. 高校時代に生徒会活動、クラブ活動、学校行事に積極的に取り組み、またはボランティアなどへの社会活動に参加した経験があります。

D. 自分の興味のある事柄について、知識や情報をもとにして筋道を立てて考え説明することができます。

E. 規則正しい生活習慣を備え、入学前教育として求められる課題に最後まで誠実に取り組むことができます。

学部等名 食物栄養科

教育研究上の目的（公表方法：<https://toita.ac.jp/info/idea.html>）

（概要）建学の精神 本学の建学の精神は、時代に適応する実学の教授研究により、職業に必要な能力を育成するとともに、知性と品性を涵養し、女性の人格形成と自立を目指すことにある。（建学の精神・教育理念より抜粋）

卒業の認定に関する方針

(公表方法 : <https://www.toita.ac.jp/info/policy.html>)

(概要) ディプロマポリシー 食物栄養科では、本学の教育課程を修め、64単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、人間栄養学と食物栄養学に関わる専門的知識・技術の修得を通じ、栄養士としての実践的な能力と社会人として必要とされる豊かな教養を身につけ、栄養面から人の健康を支えるための総合的判断力を備えた人物に学位を授与します。そのために、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成することを教育目標としています。

D. 知識・理解

人間栄養学と食物栄養学及び調理・給食に関する専門的な知識を身につけ、それぞれの食生活に適した献立を作成することができます。

E. 技能・表現

集団給食における調理技術と衛生管理をふまえた給食管理技術を身につけ、食と健康の知識を発信できます。

A. 主体性・チームワーク・責任感

栄養評価、献立作成、調理・盛り付け等に積極的に取り組み、チームの一員として責任感と協調性をもって大量調理をやり遂げることができます。

B. コミュニケーション能力

社会人としてふさわしいマナーや心配りで他者と接するとともに、健康者対象の栄養指導や給食管理の現場に必要なコミュニケーションをとることができます。

C. 思考力・判断力

食品・栄養・調理・臨床の側面から食生活における問題解決へのアプローチができ、人の健康を支えるために必要な総合的判断ができます。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 : <https://toita.ac.jp/info/policy.html>)

(概要) カリキュラムポリシー 卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技術などを修得させるために、総合教養科目・専門教育科目及びキャリア教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。科目間の関連や科目の配置を示すためにナンバリングとカラーリングを行い、カリキュラムマップによってカリキュラムの体系をわかりやすく提示します。また、教育内容、教育方法、教育評価について、以下のように定めます。

■教育内容

・総合教養科目

A. 基礎系科目では、初年次教育や多様な特別講座を通じて、短期大学での学修へ円滑に移行する力を育成します。また、豊かな日本語表現力や数的理解力を高めるとともに、自発的かつ継続的な学修力を定着させます。キャリア系科目では、洗練された女性としての立ち居振る舞い、社会常識、ホスピタリティ・マインドを育み、さらに、社会や自身への理解を深めて、自己への肯定感、仕事への意欲、自律と自立の精神を養い、自らの人生を総合的に考え創造する力を育成します。

B. 人文・社会・自然系科目では、専門科目につながる基礎知識・関連知識の定着に加え、多様な学修内容と実践を通して、学びを楽しみ豊かに生きる力および自己成長力を養成します。そのために、現代女性をとりまく問題をはじめ、人間、社会、自然に対する理解を深め、社会人として必要となる適切な判断力、広い視野を持って社会の諸課題について協働して問題解決する力、個性を活かした社会貢献を実践する力を育む科目を配置します。

C. ICT 系科目では、パソコンの基本操作やメール・SNS の利活用等情報リテラシーを身につけ、資格取得を目指すとともに、個人情報・セキュリティ・著作権等ネットコンテンツの安全な使用方法を含め、情報活用に関する知識を修得します。語学系科目では、将来の職業に直結した実践的な英語力や第二外国語の習得を通し、グローバル社会で必要な英語コミュニケーション力と異文化理解力を育成します。体育系科目では、基礎体力を養成し、運動習慣を身につけることで、自らの健康管理を継続する力を育成します。さらに、チームでの協働を通して、共感力、協調性、発信力を養います。

・専門教育科目

D. 1 年次には、食品学・衛生学・栄養学・調理学の基本的知識を修得し、演習・実習・実験を通して食と健康の分野で活躍するための栄養士に必要な基礎的な技能を養成します。

E. 2 年次には、人体の構造、食と運動の関係、疾患と食事療法、献立作成から栄養指導まで、より実践的な知識を修得し、食を通じた健康維持・増進、食生活や食事の管理・指導を行う栄養士に必要な専門知識・技能を育成します。

F. 給食管理学内実習や学外実習の授業では、これまで学修してきた知識と現場で得た知識・技術の繋がりを理解し、実際の給食現場の運営や栄養士業務を把握することを目指します。また、大量調理技術、コミュニケーション力、積極性・協調性・責任感を身につけるため、実習を配置します。

G. 食業界の仕組み、食情報に対する理解、食文化、食環境、食生活の実態把握、食空間のデザイン等、食に関わる幅広い知識・技術・経験を身につけるため、西洋料理・中華料理・製菓などの応用調理技術の授業、食育に関する授業、フードスペシャリスト資格やフードコーディネーター資格取得のための授業を編成します。

H. 目指す職業分野・進路として5つのカテゴリー「病院・福祉」、「保育所・学校・社員食堂」、「フードビジネス・販売」、「カフェレストラン・メニュー開発」、「編入学」の履修モデルを用意し、業界・進路先研究を通じたキャリア教育を行います。

■教育方法

I. 主体的に学ぶ力を高めるために、学内 Web システムを活用し自ら学修計画を立て、実行し、振り返りを行い、教職員と共に計画修正を行うという一連の流れを目標達成まで繰り返します。

J. 調査・分析を通して判断力を養い問題解決力を育成するため、産官学連携課題解決型授業を行います。

K. 栄養士として、食のスペシャリストとしての実践的な知識及び技能の修得を図るため、第一線で活躍する調理分野及び栄養士現場の外部講師による講義や食のトレンドに触れるための外部施設見学等の体験型授業を用意します。

L. 食と健康に関するプレゼンテーション力を身につけるため栄養評価や献立作成を行います。

■教育評価

M. 学位授与の方針で掲げる能力を、コアとなる授業科目における目標到達度（学科ルーブリック）と2年間の修得単位数、客観的成績評価（GPA）によって評価します。

N. 栄養士として仕事をする上で必要な実践的技術については、調理・給食系実習科目で実技試験を実施し、評価します。

O. 学修成果の指標として、「栄養士実力認定試験」での6割程度の正解を求めます。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://toita.ac.jp/info/policy.html)</p>
<p>(概要) アドミッションポリシー 食物栄養科では、卒業認定・学位授与の方針および教育課程編成の方針に定める人材を育成するために、次にあげる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。また、入学者を適正に選抜するために多様な選抜方法を実施いたします。</p> <p>A. 食と栄養および健康に強い関心を持ち、栄養士免許取得を目標に学修する意欲があります。</p> <p>B. 化学基礎および生物基礎を共に履修しているか、化学と生物に関する基礎的な知識を有します。また、基礎的な計算力(割合の計算、百分率の計算、単位の換算、濃度の計算など)があります。</p> <p>C. 高校時代に生徒会活動、クラブ活動、学校行事に積極的に取り組み、またはボランティアなどへの社会活動に参加した経験があります。</p> <p>D. コミュニケーション力があり、自身の関心のある事柄について、知識や情報をもとにして筋道を立てて考え説明することができます。</p> <p>E. 規則正しい生活習慣を備え、入学前教育として求められる課題に最後まで誠実に取り組むことができます。</p>

<p>学部等名 国際コミュニケーション学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://toita.ac.jp/info/idea.html)</p>
<p>(概要) 建学の精神 本学の建学の精神は、時代に適応する実学の教授研究により、職業に必要な能力を育成するとともに、知性と品性を涵養し、女性の人格形成と自立を目指すことにある。(建学の精神・教育理念より抜粋)</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.toita.ac.jp/info/policy.html)</p>
<p>(概要) ディプロマポリシー 国際コミュニケーション学科では、教育課程を修め、64単位の卒業単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、英語、国際文化、ICTに関する専門知識の修得を通じ、現代社会に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけ、グローバル社会において、それらを総合的に活用できる人物に学位を授与します。そのために、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成することを教育目標としています。</p> <p>B. コミュニケーション能力 状況にふさわしいマナーで他者と接するとともに自身の気持ちを的確に言葉で表現することができます。また、他者の主張も理解し尊重しながら、同時に自らの考えを発信することができます。</p> <p>A. 主体性・チームワーク・責任感 チームにおける自分の役割を認識し、その認識に基づいて自ら積極的に行動に移し、最後までやり遂げることができます。</p> <p>C. 思考力・判断力 情報収集・活用・分析力を身につけ、偏見や差別に縛られない公正な判断に基づく自分の意見を発信し、問題解決のために自ら積極的に行動することができます。</p> <p>D. 知識・理解 国際共通語としての英語を用いて日常生活や仕事に必要なコミュニケーションをとることができます。また、幅広いICTスキルと知識を身につけることで今日のグローバル社会で必要とされる様々な情報を収集・発信することができます。</p>

できます。

E. 技能・表現

異文化の理解を深め、英語と ICT のスキルを活用し、状況に適した手段を用いてプレゼンテーションを行うことができます。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://toita.ac.jp/info/policy.html>)

(概要) カリキュラムポリシー 卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技術などを修得させるために、総合教養科目・専門教育科目及びキャリア教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。科目間の関連や科目の配置を示すためにナンバリングとカラーリングを行い、カリキュラムマップによってカリキュラムの体系をわかりやすく提示します。また、教育内容、教育方法、教育評価について、以下のよう定めま

■教育内容

・総合教養科目

A. 基礎系科目では、初年次教育や多様な特別講座を通じて、短期大学での学修へ円滑に移行する力を育成します。また、豊かな日本語表現力や数的理解力を高めるとともに、自発的かつ継続的な学修力を定着させます。キャリア系科目では、洗練された女性としての立ち居振る舞い、社会常識、ホスピタリティ・マインドを育み、さらに、社会や自身への理解を深めて、自己への肯定感、仕事への意欲、自律と自立の精神を養い、自らの人生を総合的に考え創造する力を育成します。

B. 人文・社会・自然系科目では、専門科目につながる基礎知識・関連知識の定着に加え、多様な学修内容と実践を通して、学びを楽しみ豊かに生きる力および自己成長力を養成します。そのために、現代女性をとりまく問題をはじめ、人間、社会、自然に対する理解を深め、社会人として必要となる適切な判断力、広い視野を持って社会の諸課題について協働して問題解決する力、個性を活かした社会貢献を実践する力を育む科目を配置します。

C. ICT 系科目では、パソコンの基本操作やメール・SNS の利活用等情報リテラシーを身につけ、資格取得を目指すとともに、個人情報・セキュリティ・著作権等ネットコンテンツの安全な使用方法を含め、情報活用に関する知識を修得します。語学系科目では、将来の職業に直結した実践的な英語力や第二外国語の習得を通し、グローバル社会で必要な英語コミュニケーション力と異文化理解力を育成します。体育系科目では、基礎体力を養成し、運動習慣を身につけることで、自らの健康管理を継続する力を育成します。さらに、チームでの協働を通して、共感力、協調性、発信力を養います。

・専門教育科目

これからの国際社会に必要な異文化理解力とホスピタリティ・マインドを基盤に、英語コミュニケーション力と ICT を活用できるようになることを目指します。また、その上で職業に直結した下記のモデルを組み合わせることにより、社会で活躍できる専門知識と技術を養うとともに、社会人基礎力などのこれからの情報社会に通用する汎用的職業能力を育成します。

D. 「ホテル・ツーリズムモデル」および「エアラインモデル」では、異文化理解を深め、接客の基本となるホスピタリティ・マインドを養います。また、ホテル業界、観光業界、そしてエアライン業界に必要な基本的な知識や技能だけでなく、各ビジネスシーンに応じた英語コミュニケーション力を育みます。

E. 「金融・広告・ICTモデル」では、これからの情報社会におけるビジネス全般を支える情報処理の役割を学びます。また、メディアコンテンツやウェブデザインへの理解を深め、金融業界や広告業界、ICT業界で働くための伝達力、論理展開力、情報活用力、そしてICTの最新情報を活用するための英語力を育成します。

F. 「ビジネス・レセプション・販売モデル」では、急激なグローバル化により、国内でも日本語のみのコミュニケーションや接客では成り立たなくなることを念頭に、外国人と接するための英語コミュニケーション、国際マナー、ホスピタリティ、情報処理などの学びを通じて主体性や責任感を育成します。さらに、顧客との円滑なコミュニケーション構築のための接客技術の習得と秘書関連の資格取得を目指します。

G. 「医療事務・医療秘書モデル」では、身体構造と機能、疾患について、診療報酬の算出方法等について学びます。また、病院に関する知識を深め、医療機関の受付業務における患者への対応の基本やグローバル化に対応した医療受付現場で使用する英語力を育成します。さらに、医療秘書技能検定をはじめとする医療系の資格取得を目指します。

H. 「編入学・留学モデル」では、英語力と異文化理解力を向上し、個々の学生の進学希望に沿って留学準備および留学に必要な英語力を育成します。また、論理的思考力と論述力を身につけるため編入学に向けた小論文対策を行います。

■教育方法

I. 主体的に学ぶ力を高めるために、学内Webシステムを活用し自ら学修計画を立て、実行し、振り返りを行い、教職員と共に計画修正を行うという一連の流れを目標達成まで繰り返します。

J. 英語必修科目とICT関連科目においては、習熟度別クラス編成を取り入れ、学生のレベルに応じた効果的な教育を行います。

K. 調査・分析を通して判断力を養い問題解決力を育成するため、産官学連携課題解決型授業を行います。

L. 主体性・協調性・積極性、コミュニケーション力を育むため、第一線で活躍する様々な業界の外部講師による講義や、インターンシップ・ボランティア・海外短期留学・正課外活動などの幅広い体験型の学びの機会を用意します。

M. 英語科目、ICT科目、ビジネス科目では、講義科目、演習科目ともに、ICT機器を駆使した授業を展開します。コミュニケーション力、プレゼンテーション力を養うため、学生間の相互情報発信の実現、学生自身の計画立案に基づいた制作活動などのPBL、反転授業の実施など多様なアクティブラーニングを行います。

■教育評価

N. 学位授与の方針で掲げる能力を、コアとなる授業科目における目標到達度（学科ルーブリック）と2年間の修得単位数、客観的成績評価（GPA）によって評価します。

O. 英語コミュニケーション力とICTスキルに関しては、外部または学内客観テストでの合格が必要になります。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://toita.ac.jp/info/policy.html>）

(概要) アドミッションポリシー 国際コミュニケーション学科では、卒業認定・学位授与の方針および教育課程編成の方針に定める人材を育成するために、次にあげる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。また、入学者を適正に選抜するために多様な選抜方法を実施いたします。

A. 高等学校の教育課程を幅広く修得しつつ、国語読解力及び、英語読解力・語彙力などの英語総合力を身につけています。

B. 英語、異文化、ICT を主体的に学び、グローバル社会に貢献しようとする姿勢があり、高いコミュニケーション力があります。

C. 高校時代に生徒会活動、クラブ活動、学校行事に積極的に取り組み、またはボランティアなどへの社会活動に参加した経験があります。

D. 英語、異文化、ICT に興味があり、知識や情報をもとにして筋道を立てて考え説明することができます。

E. 規則正しい生活習慣を備え、入学前教育として求められる課題に最後まで誠実に取り組むことができます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 服飾芸術科：<https://toita.ac.jp/department/fashion/>

食物栄養科：<https://toita.ac.jp/department/food/>

国際コミュニケーション学科：<https://toita.ac.jp/department/international/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
服飾芸術科	—	5人	2人	5人	2人	1人	15人
食物栄養科	—	4人	5人	0人	1人	5人	15人
国際コミュニケーション学科	—	2人	3人	4人	0人	0人	9人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		69人					69人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法 服飾芸術科： https://toita.ac.jp/department/fashion/teacher.html 食物栄養科： https://toita.ac.jp/department/food/teacher.html 国際コミュニケーション学科： https://toita.ac.jp/department/international/teacher.html						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
服飾芸術科	150人	193人	129%	300人	378人	126%	0人	0人
食物栄養科	150人	162人	108%	300人	318人	106%	0人	0人
国際コミュニケーション学科	100人	129人	129%	200人	253人	127%	0人	0人
合計	400人	484人	121%	800人	949人	119%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
服飾芸術科	182人 (100%)	3人 (1.6%)	171人 (94.0%)	8人 (4.4%)
食物栄養科	145人 (100%)	8人 (5.5%)	132人 (91.0%)	5人 (3.5%)
国際コミュニケーション学科	118人 (100%)	1人 (0.8%)	116人 (98.3%)	1人 (0.8%)
合計	445人 (100%)	12人 (2.7%)	419人 (94.2%)	14人 (3.1%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
https://www.toita.ac.jp/course/employment/employment-info.html
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関することについては、シラバス、カリキュラム表、カリキュラムマップを作成し、学生へ周知している。 なお、同内容は本学ホームページにて公開している (服飾芸術科： https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/department/fashion/syllabus_fashion_2019.pdf 食物栄養科： https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/department/food/syllabus_food_2019.pdf 国際コミュニケーション学科： https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/department/international/syllabus_ic_2019.pdf 総合教養科目： https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/department/culture/syllabus_culture_2019.pdf</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関することに関しては、学科ごとに履修要項にて定めている。 なお、同内容は本学ホームページにて公開している (https://www.toita.ac.jp/sy-pdf/2019_gakusyuunoseika.pdf)</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
戸板女子短期大学	服飾芸術科	64 単位	有・無	46 単位
	食物栄養科	64 単位	有・無	50 単位
	国際コミュニケーション学科	64 単位	有・無	46 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.toita.ac.jp/campuslife/facilities.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
戸板女子 短期大学	服飾芸術科	730,000 円	250,000 円	施設設備費 180,000 円 教育充実費 9,000 円	
	食物栄養科	770,000 円	250,000 円	施設設備費 190,000 円 教育充実費 9,000 円 栄養士履修費 20,000 円	
	国際コミュニケーション 学科	700,000 円	250,000 円	施設設備費 180,000 円 教育充実費 22,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、学生の修学に係る取組として教員によるオフィスアワーを設け、授業時間以外においても時間を設定し学生の修学に係る支援を行っている。なおこの取組は、 https://toita.ac.jp/campuslife/studentsupport.html にて掲載している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターを設置し、進路選択に係る支援に関する取組を行っている。また、教員で構成される進路・就職委員会を設置し進路選択に係る支援を実践している。なおこの取組は、 https://toita.ac.jp/course/ にて掲載している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室において看護師が常駐し、心身の健康等に係る支援をしている。また、学生相談室（カウンセリング室）資格を持った専門のカウンセラーが個別に相談に応じている。なおこの取組は、 https://toita.ac.jp/campuslife/studentsupport.html にて掲載している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.toita.ac.jp/info/disclosure.html
